

# 福島町におけるアワビ陸上養殖事業について

福島町 産業課（水産）

## はじめに

当町は、津軽海峡に面する北海道南西部に位置し、秀峰 大千軒岳や道南の知床と呼ばれる秘境の岩部海岸などを有し、豊かな資源に恵まれています。また、第41代横綱千代の山・第58代横綱千代の富士の生誕地であることや世界最大級の海底トンネル「青函トンネル」の工事基地の町でもあります。当町の産業は、基幹として「漁業」が水産加工業等の2次産業、3次産業へと波及して維持発展してきたこともあり、沖合漁業の資源低下、昆布養殖を中心とする沿岸漁業の従事者減少による漁業生産の低下は、地域産業全体の生産を低下させ、人口減少の主要因ともなっております。

また、ウニ・アワビなど良質の水産物はあるものの、通年安定して供給できる状況になく、「食」の提供において観光客を呼び込むことができずにあります。そのような状況を踏まえ、蝦夷アワビを効率的・低コストで生産できる陸上養殖システムの特許技術を有している民間企業があることから、新たな産業創出に向け、平成28年度から国の地方創生交付金を活用し、技術の実用化に向け試験養殖・施設整備等を開始しました。

## 新たな陸上養殖技術を活用した事業の概要

一般的にアワビ陸上養殖では水槽に止水状態で海水

を交換しながら養殖を行いますが、今回当町が取り組んだ養殖方法は、水路に海水を流して堰で溢れ溜まった部分で養殖をするという手法です。海から汲み上げた海水は、傾斜を持たせ設置した飼育槽に、自然落下で下段まで空気中の酸素とともに供給されます。この仕組みにより、海水及び酸素供給に係る動力が不要なことと、養殖に使用する海水量が従来の5分の1以下となり、電気代や施設経費が圧縮することができ、生産コスト低下に大きく寄与することができます。

また、万が一止水となった場合にも、水槽内にアワビが生存に必要な水位が保たれる仕組みとなっており、安全確保にも配慮しているものです。

飼育試験経過では、約20mmの稚貝が1年半ほどで50mm程度まで成長するなど、順調な成長が見られている状況です。

養殖施設は、福島漁港敷地内に整備し、事業実施にあたっては、可能な限り町内の技術を活用しております。養殖技術は町内企業の持つ特許技術を、飼育水槽は造船業によるFRP製とするなど、その他、鉄工業・建設業と一丸となって整備を進めており、水槽は高齢者でも作業ができるよう、あえて小型に製作し、地域が抱える高齢化労働対策も見据えています。

養殖施設では、15万個のアワビを飼育する規模があり、そのアワビは、天然物と競合しないよう、55mm程度の小ぶりサイズで出荷し、低価格に抑え日常消費につなげる新たな市場を目指しています。

また、養殖したアワビに付加価値をつけるための加工施設が併設されており、アワビを始めとする水産物等による新たな特産品の開発などと併せ、地元飲食店などでの食材活用を目指し、町の観光施設と結びつけた観光ルートの確立など、水産振興・観光振興の両面から、雇用の場の確保と地域の活性化を図ります。



福島漁港内に整備された養殖施設



自然流下等の工夫がされた飼育槽



生育したアワビ